

弾圧と反動うち破り 80年代を闘いぬける労働運動を！

日刊 動労千葉

79.11.8
No.270

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆電話）二七二〇七

10.22、11.1 闘争のきりひらいた地平

動労千葉は、10・21、22の連続決起をもって闘い抜いた第一波の闘いに引き続き、11・1第二波の闘いを成田拠点ストを中心に、全組合員の減産（B行動）を配置する中で、五本の燃料列車をストップさせたのはじめ、終日、管内の列車に大巾な遅れを現出する闘いとして圧倒的に闘い抜いた。

闘いで強化された動労千葉の団結と「本部」のスト破り策動

動労千葉の二波にわたる闘いが切り拓いた意義は、第一に、新生動労千葉の組織の飛躍的強化を闘いとったことである。
11・1スト前夜集会には四五〇名という組合員が結集し、減産闘争においては全組合員が一糸乱れぬ団結力をさし示した。「本部」反動暴力分子の「動労千葉は崩壊寸前」なるデマ宣伝は10・22、11・1の闘いで完全にうち破られたのだ。
第二に、この間の「本部」反動暴力集団の反労働者の実態がいよいよ鮮明にされたということである。

「スト絶対反対」「10・21は反革命スト」などと言いつつ、一方では、津田沼への権力介入の手引きを行い、燃料増送用の機関車を、岡山、門司、新潟から積極的に送り込むという裏切りを公然と行い、闘争破壊者としての本性をあらわにしたのである。動労千葉の組合員は彼らがどう弁解しようとも聞く耳はもたない。デマ宣伝と闘争破壊行為によって逆に動労千葉の闘う路線の正義性はより鮮明なものとなったのである。

鮮明となった路線の正義性 「四つの視点と二つの戦略」

第三に極めて重要な意義として動労千葉が三里塚・ジェット闘争を闘うに当って提起した「四つの視点と二つの戦略」の路線の正しさを文字通り証明したことである。
①二波の闘いを通して労農連帯は一層強化され、備蓄ゼロにさらに一歩近づいたこと。
「国鉄三五万人体制」といかに闘うかという方向性を全く出さず、右傾化のバスに乗りおくれまいとすることのみに専念している国労、動労中央の裏切りの路線に、
②森山運輸相のスト圧殺、労働運動封じこめ路線の中で大きなくさびをうちこみ、八〇年代を闘い抜く真の労働運動の展望をきりひらいたこと。
③当局による助役機関士導入策動、警視庁、千葉



県警二三〇〇といふ未曾有の大弾圧体制、さらには「本部」反動暴力分子の敵対、これらのすさまじい弾圧と反動を粉砕して闘い抜かれたこと。以上のような闘いの爆発は自らの闘う主体の確立と広範かつ重層的な支援・連帯の環をともに大きく作り出してきたのである。

第三波（年末）闘争の圧倒的高揚を

全組合員のみなさん！
いまわれわれの目前には、「国鉄三五万人体制」攻撃と、三里塚二期工事強行という情勢がある。われわれは、これらを文字通り「鉄路を武器に」闘うことをとおして動労大改革として八〇年代に通用する自前の労働運動をつくり出してゆこうではないか。
生産点を軸に、生産点に立脚した年末第三波闘争へ向けて圧倒的高揚をつくりだしてゆこう！

千葉県公労協開催さる！ 中野書記長、幹事に再選

一九七九年度県公労協総会は十一月五日千葉市・万菊において開催され、各組合間の交流強化を中心とする当面する取組みを決定すると同時に、議長に堺（国労）氏、事務局長に小田切（電通）氏を選出して終了した。
尚、動労千葉からは中野書記長が幹事に再選され、動労問題については「県公労協としては、動労（動労千葉）が県労連加盟組合である間は、県公労協加盟組合として、従来どおり対処します」との態度を満場一致確認した。